

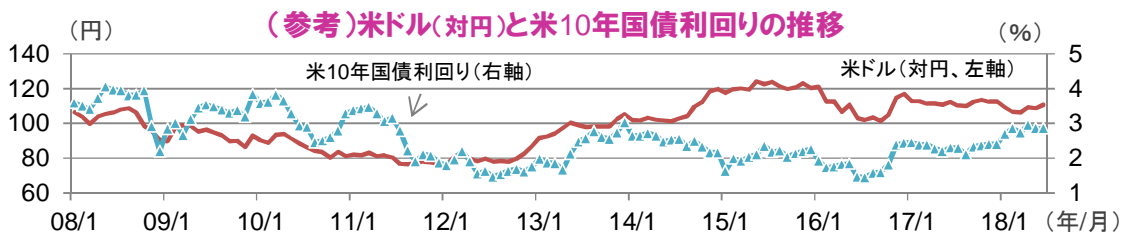
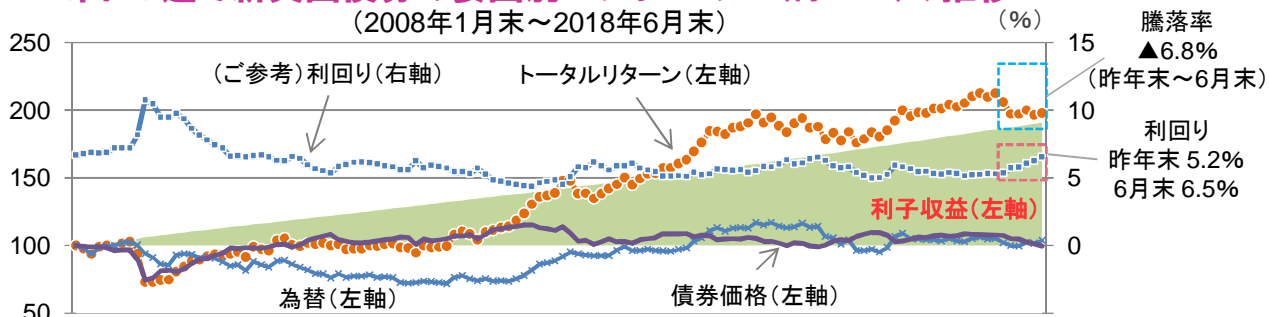
新興国債券投資の魅力 ～高利回りはパフォーマンスの下支えに～

米国の長期金利や米ドルの上昇を背景に、新興国の米ドル建て債務の負担が増加するとの懸念に加え、原油高による物価上昇圧力や、アルゼンチンやトルコなど個別国の経済・政治問題などから、投資家の新興国に対する見方が厳しくなっています。こうしたことを背景に、新興国債券のパフォーマンスは、昨年末から6月末までで▲6.8%(円ベース)と軟調になりましたが、新興国のファンダメンタルズは依然として強く、足元の利回り上昇(昨年末5.2%⇒6月末6.5%)により、新興国債券投資の魅力が高まっています(JPモルガン EMBI グローバル・ディバースファイドを使用)。

新興国債券は、一般に信用リスクが先進国に比べて高いことなどから、比較的利回りが高く、長期間保有するほど利子収益が積み上がるため、債券価格や為替の変動によるマイナスの影響をカバーする効果が期待できます。具体的に、米ドル建て新興国債券のパフォーマンス(円ベース)を、利子収益、債券価格、為替の3つの要因に分けてみると、短期的には債券価格や為替が大きく変動し、パフォーマンス(トータルリターン)が悪化する局面がみられたものの、中長期的には利子収益の積み上げ効果により、概ね堅調なパフォーマンスとなりました(下記グラフ)。

米ドル建て新興国債券は、米国債利回りが基準金利となるため、米金利が上昇する場合や、新興国に対する投資家の懸念が市場で高まる場合、売られる傾向にあります。一方で、米利上げにより、米国と日本の内外金利差が拡大し、対円で米ドル高が進む場合は、円ベースのパフォーマンス改善が見込まれます。また、米金利の上昇により、債券価格が一時的に下落しても、中長期的には、利子収益の増加が債券価格の下落を補うことが期待できます。こうしたことから、長期投資において、新興国債券は魅力的な投資先のひとつと考えられます。

米ドル建て新興国債券の要因別パフォーマンス(円ベース)の推移



※「トータルリターン、利子収益(トータルリターンとプライスリターンの差)、債券価格、為替」は起点を100として指数化
※新興国債券はJPモルガン EMBI グローバル・ディバースファイドを使用

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。